

2025 年度

卒業時学生アンケート調査結果

— 卒業生の成長実感・満足度調査 —

明海大学 IR 推進本部

2026 年 6 月

調査概要

	浦安キャンパス	坂戸キャンパス（歯学部）
調査日	2026 年 3 月 10 日（3 月学位記授与式） 2025 年 9 月 12 日（9 月学位記授与式）	2026 年 2 月 1 日（国家試験終了日）
調査方法	質問紙	Google Form
対象者数	798 名	78 名
回答者数	789 名	78 名
回収率	98.9%	100%

1. 調査の目的と経緯

本学では、卒業生の成長実感や満足度を継続的に把握することを通じて、教育の質の向上に取り組んでいる。

2025 年度調査において特筆すべき点は、浦安キャンパスと坂戸キャンパス（歯学部）の卒業時アンケートを初めて合同で取りまとめた点である。これは、朝日大学との IR（インスティテューショナル・リサーチ）提言会における指摘——両キャンパスの設問を可能な限り統一することで、大学全体としての教育成果の把握と比較分析が可能になる——を受けたものである。今回はその第一歩として、設問の対応関係を整理しつつ、比較可能な範囲で両キャンパスのデータを横断的に分析した。

なお、Q1・Q2 については選択肢がキャンパスごとに異なるため個別に集計した。Q4 は設問の趣旨は同一だが在学期間の表現（浦安「4 年間」・歯学部「6 年間」）が異なる。Q3・Q5・Q7（歯学部は Q6）は設問文が完全に一致しており、両キャンパスの直接比較が可能である。また浦安キャンパスのみに「卒業した学部・学科への入学満足度（Q6）」が設けられている。設問の統一は今後の課題として継続的に取り組む方針である。

本調査は 5 段階評価（「はい」「まあそうである」「どちらとも言えない」「あまりそうとは言えない」「いいえ」）を用いており、肯定的回答（「はい」＋「まあそうである」）の割合を「肯定率」として集計・分析した。

設問一覧

両キャンパスの設問の対応関係は以下の通りである。

設問	浦安キャンパス	坂戸キャンパス（歯学部）	比較
Q1	在学中に熱心に取り組んだこと（複数回答） 選択肢：幅広い教養／専門教育／学外試験・資格取得／国際・地域交流／インターンシップ／就職活動／ボランティア活動／部活・サークル・学友会活動／友人との交流／趣味・娯楽／アルバイト	同趣旨（複数回答） 選択肢：幅広い教養／専門教育（講義・実習）／学外試験・資格取得／国際・地域交流／ボランティア活動／課外活動／友人との交流／趣味・娯楽／アルバイト	選択肢が異なるため個別集計
Q2	大学の教育内容で良かったもの（複数回答） 選択肢：基礎教育／教養教育（人間力形成教育）／キャリア教育／語学教育／専門教育／ゼミ・卒業研究・卒業論文／海外留学・研修	同趣旨（複数回答） 選択肢：専門教育（講義）／専門教育（実習）／臨床実習／総合歯科医学／体験学習（臨実体験・福祉と介護）／人間力形成教育／海外留学・研修	選択肢が異なるため個別集計
Q3	授業を受けて、専門教育に係る知識や能力を身につけることができ、成長することができたと思うか	同じ	◎ 直接比較可
Q4	建学の精神（社会性・創造性・合理性）を 4 年間で身につけることができたと思うか	同趣旨（「4 年間」→「6 年間」）	△ 在学期間の表現が異なる
Q5	大学に入学して良かったと思うか	同じ	◎ 直接比較可
Q6	卒業した学部・学科に入学して良かったと思うか	（設問なし）	浦安のみ
Q7（歯学部）	大学生活を経て、自信や誇りを持てるようになったか ★KPI	同じ（歯学部では Q6 として設定） ★KPI	◎ 直接比較可

は Q6)			
----------	--	--	--

※「◎ 直接比較可」は設問文が完全に一致する設問。「△」は趣旨は同一だが表現が異なる設問。

2. 主要指標（KPI）「自信や誇りを持てるようになったか」

大学生活全体を通じた学生の成長実感を最も端的に示す指標として、「大学生活を経て、自信や誇りを持てるようになりましたか」（浦安：Q7、歯学部：Q6）を本調査の主要指標（KPI）と位置づける。

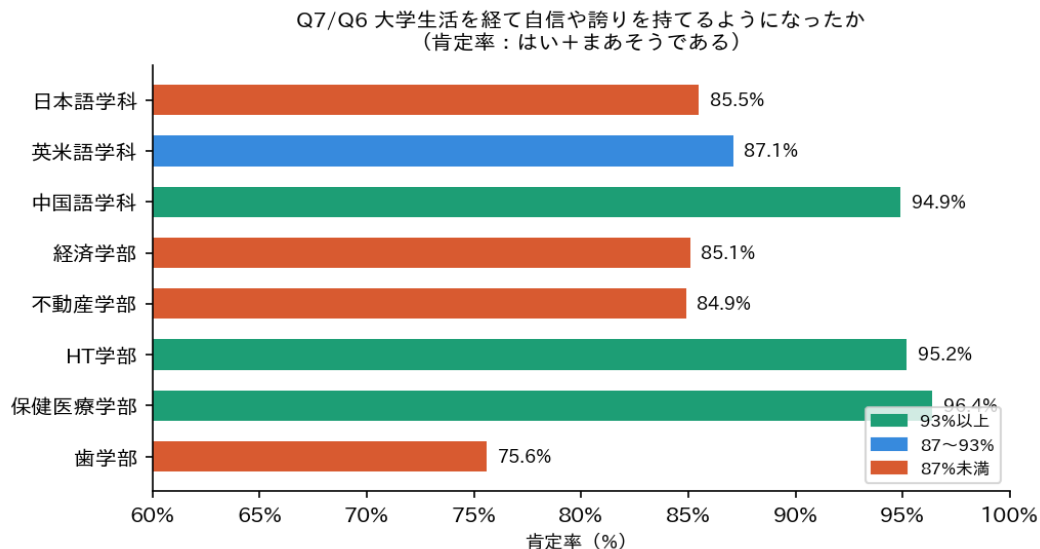


図1 「自信や誇りを持てるようになったか」学部別肯定率（はい+まあそうである）

浦安キャンパス全体の肯定率は **87.8%**（平均スコア **4.41**）であった。学部別にみると、保健医療学部（**96.4%**）・HT 学部（**95.2%**）・中国語学科（**94.9%**）が **93%以上**と高水準を示した一方、日本語学科（**85.5%**）・経済学部（**85.1%**）・不動産学部（**84.9%**）の3学部は **85%台**にとどまり、学部間で約 **11 ポイント**の開きが生じた。

注目されるのは、KPI（Q7）と入学満足度（Q5）・学部入学満足度（Q6）との関係である。全体的に **Q5・Q6**が **Q7**を上回る傾向にあり、浦安全体で **Q7**は **Q5**を **6.9 ポイント**、**Q6**を **4.1 ポイント**下回った。これは、大学・学部への満足感が必ずしも自己の成長実感・自信の獲得に直結しないことを示唆しており、教育の成果を学生自身が自己肯定感として内在化するプロセスへの支援が課題として浮かび上がる。

一方、保健医療学部はこの傾向の例外であり、KPI（**96.4%**）が **Q5**（**89.5%**）・**Q6**（**85.7%**）をそれぞれ **6.9 ポイント**・**10.6 ポイント**上回った。資格取得という明確な目標の達成が、入学時の期待を超える成長実感につながったものと推察される。HT 学部・中国語学科も同様に、専門的な学習経験と成長実感が高い水準で一致している。

坂戸キャンパス（歯学部）は **75.6%**（平均スコア **4.17**）であった。「はい」**50.0%**・「まあそうである」**25.6%**・「どちらとも言えない」**19.2%**という分布は、浦安と比較して「どちらとも言えない」の割合が高いことが特徴的である。調査が歯科医師国家試験終了直後（**2026年2月1日**）に実施されており、試験結果への不安が「どちらとも言えない」という中間回答に反映された可能性がある。専門教育への評価（**Q3：91.0%**）との乖離は、知識・能力の習得実感と自己の成長への確信との間に距離があることを示唆しており、国家試験合格後に学生が自信や誇りをどのように育むかを継続的に把握することも今後の課題として考えられる。

3. 各設問の結果（浦安キャンパス・坂戸キャンパス合同）

以下に、全学部共通で比較可能な Q3・Q4・Q5 および主要指標（KPI）の肯定率を示す。

学部・学科	Q7 自信・誇り	Q3 専門教育	Q4 建学の精神	Q5 入学満足
日本語学科	85.5%	92.3%	93.5%	94.8%
英米語学科	87.1%	88.0%	88.2%	95.7%
中国語学科	94.9%	100.0%	92.3%	100.0%
経済学部	85.1%	88.4%	91.2%	93.9%
不動産学部	84.9%	88.1%	84.8%	93.8%
HT 学部	95.2%	98.8%	97.6%	98.8%
保健医療学部	96.4%	96.5%	96.5%	89.5%
浦安全体	87.8%	91.1%	91.0%	94.7%

※歯学部は「6年間で」、浦安は「4年間で」と在学期間の表現が異なります。

専門教育への評価（Q3）

専門教育に係る知識や能力を身につけ成長できたかを問う Q3 では、中国語学科（100%）・HT 学部（98.8%）・保健医療学部（96.5%）が特に高く、全学部を通じて高水準の評価が得られた。坂戸キャンパス（歯学部）も 91.0%と良好な結果を示している。

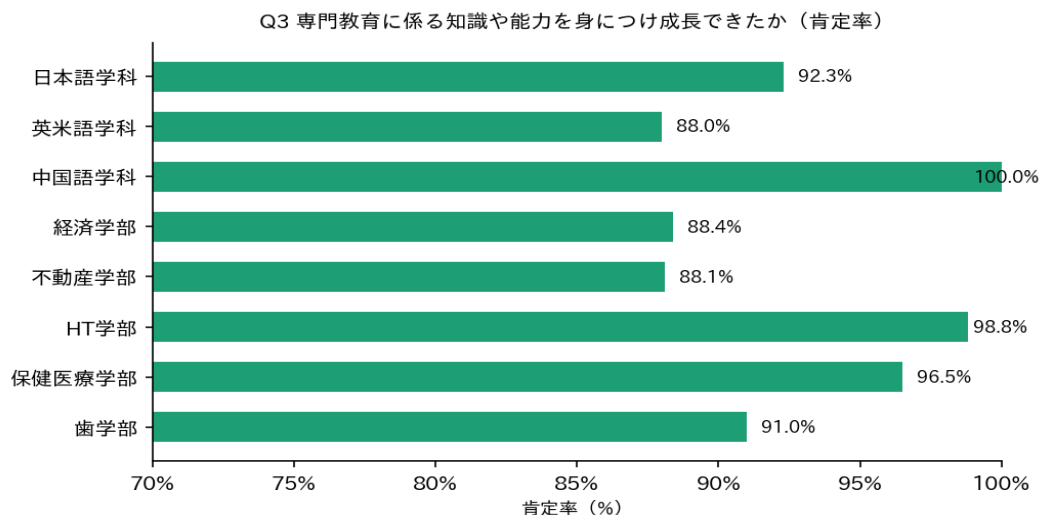


図2 「専門教育に係る知識や能力を身につけ成長できたか」学部別肯定率

建学の精神の習得（Q4）

建学の精神（社会性・創造性・合理性）の習得感については、HT 学部（97.6%）・保健医療学部（96.5%）が高い評価を示した。坂戸キャンパス（歯学部）は 74.4%となっており、6年間の修学を通じた建学の精神の浸透について更なる取り組みが必要である。

入学満足度（Q5）

「大学に入学して良かったか」については、中国語学科・HT 学部が **100%・98.8%**と突出しており、浦安キャンパス全体でも **94.7%**と非常に高い満足度が確認された。坂戸キャンパス（歯学部）も **87.2%**と高水準を維持している。

4. 学部・学科への満足度（浦安キャンパス）

「卒業した学部・学科に入学して良かったか」（Q6）は浦安キャンパスのみの設問である。浦安全体の肯定率は91.9%と高く、学生が自身の選択した専門領域に対して高い満足感を持っていることがわかる。

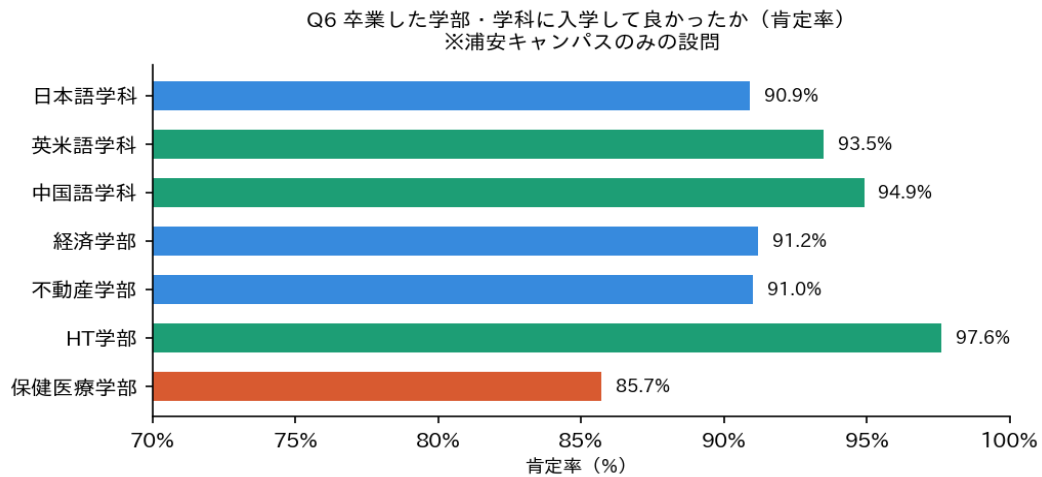


図3 「卒業した学部・学科に入学して良かったか」学部別肯定率（浦安キャンパスのみ）

5. 年次比較（2024 年度 → 2025 年度）

主要指標（KPI）について、前年度（2024 年度）との比較を行った。全体的に改善傾向が見られ、特に中国語学科（+15.9 ポイント）・保健医療学部（+15.4 ポイント）で大きな改善が確認された。

なお、Q7（自信・誇り）は 2024 年度より新設された設問のため、比較は 2024 年度→2025 年度の 1 年間にとどまる。

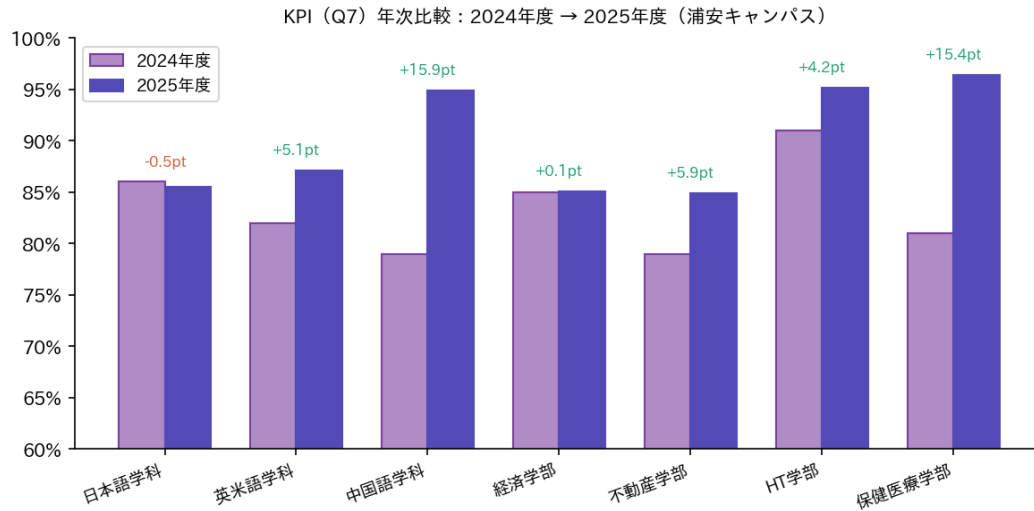


図4 KPI「自信や誇りを持てるようになったか」年次比較（浦安キャンパス）

6. 所見

本調査の結果を、①データから確認できたこと、②解釈に慎重さを要すること、③指標の活用にあたっての留意点、の3点に整理する。

① データから確認できたこと

- ・ 専門教育への評価（Q3）は全学部で高水準を維持しており、本学教育の質的な基盤が安定していることが示された。
- ・ 入学満足度（Q5）は浦安全体で **94.7%** に達しており、大学への肯定的な評価が広く共有されている。
- ・ 主要指標（KPI：Q7/Q6）において、前年度比で改善が見られた学部・学科が多い。特に中国語学科（**+15.9** ポイント）・保健医療学部（**+15.4** ポイント）の改善は注目に値する。
- ・ ゼミ・卒業研究（浦安）および臨床実習（歯学部）は、良かった教育内容（Q2）として最も多く選ばれた。ただし本調査が卒業時に実施されるという性格上、直近の学修経験が印象に残りやすい点は考慮が必要であり、これらが成長実感に直接寄与しているかどうかは本データのみから判断することはできない。

② 解釈に慎重さを要すること

- ・ 建学の精神の習得感（Q4）は一部の学部・学科で KPI や他設問と比較してやや差がある。ただし、「社会性・創造性・合理性」という抽象度の高い問いを卒業時点で自覚的に言語化・自己評価することの難しさも考慮すべきであり、数値の低さを即座に「浸透不足」と断定することは慎重であるべきだ。
- ・ 坂戸キャンパス（歯学部）の KPI（**75.6%**）は浦安各学部と比較して差がある。しかし調査が歯科医師国家試験終了直後という特殊な時期に行われていることを踏まえると、数値は時期的な心理状況を反映している可能性がある。専門教育への評価（Q3：**91.0%**）との乖離はその傍証となり得るが、断定はできない。
- ・ KPI と満足度（Q5・Q6）の関係については、保健医療学部のみ KPI が満足度を上回るという特徴的なパターンが見られた。資格取得という明確な目標との関連が考えられるが、因果関係の特定には更なるデータが必要である。

③ 指標の活用にあたっての留意点

- ・ 本調査では、大学生活全体を通じた学生の成長実感を総合的に把握する指標として「自信や誇りを持てるようになったか」（Q7/Q6）を KPI に設定した。この問いへの回答は、個人の性格や学外経験、調査時期の心理的状況など複合的な要因の影響を受け得るものであり、数値の変動要因を単一の要素に帰することは難しい。そのため、1 時点の数値の多寡よりも、学部間の傾向の差異や経年変化の方向性をもって解釈することが有効である。
- ・ 建学の精神の習得感（Q4）についても、「社会性・創造性・合理性」という理念を卒業時点でどの程度自覚的に言語化できるかという難しさがある。数値の解釈にあたっては、在学中の学びのプロセス全体を視野に入れた読み方が求められる。縦断的な調査の実施や、在学中の特定時点との比較も今後の選択肢として考えられる。
- ・ 学部間の差については、学部の規模・学生の入学時特性・進路の傾向など外的要因の影響も考えられる。本調査の結果はあくまで現状把握の基礎資料として位置づけ、各学部の実情に即した解釈のもとで活用することが重要である。

本調査の結果は、教育改善に向けた議論の基礎資料として活用する。**KPI**をはじめとする各指標の経年的な追跡を通じて、本学教育の成果をより多角的に把握していく。
